

28年12月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成28年12月1日～ 28年12月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は11社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/12月	29/1月	29/2月
入荷動向	スギ・ヒノキ	5.6	△ 5.6	△ 16.7
	マツ	△ 40.0	△ 45.0	△ 45.0
	広葉樹	△ 22.7	△ 22.7	△ 18.2
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 22.2	△ 33.3	△ 27.8
	マツ	△ 16.7	△ 27.8	△ 27.8
	広葉樹	△ 20.0	△ 10.0	△ 5.0
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 27.8	△ 27.8	△ 38.9
	マツ	△ 55.6	△ 55.6	△ 55.6
	広葉樹	△ 20.0	△ 25.0	△ 30.0

・チップ用国産原木の入荷、消費及び在庫は、12月に一部少しの増加があるものの、総じて3ヵ月連続して減少。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	28/12月	29/1月	29/2月
スギ・ヒノキ	5.6	5.6	5.6
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	△ 4.5	0.0	0.0

・チップ用国産原木の購入価格は、スギ・ヒノキはやや強含みで推移。マツ類は3ヵ月連続して横ばい。広葉樹は弱保合いで推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

・システム販売や森林再生事業により仕入れは増加傾向にある。広葉樹は森林再生事業への業者の移行により引き続き入荷減が見込まれる（東北）。

・修理メンテナンスと土場整理冬支度のため減少（中部）。

・針葉樹材の入荷が良くない（バイオマスで高値買取りのため）（関東）。

・冬に向け原木入荷が減少、製紙会社のチップ使用量は安定、在庫は減（中部）。

・変動なし（中国）。

・当月は集材状況も良く仕入れはやや増加、翌月以降は積雪の心配あり。消費もやや増加、翌月以降の仕入れは横ばいで、消費はやや減少（四国）。

・針葉樹は、秋からの伐採期に入り、チップ材が出始めたところ、広葉樹は入荷少な目で横ばい。消費は、針葉樹は11月減産したため12月は増加、1月からは計画数量に戻る。広葉樹はある分のみ消費。針葉樹は発電用もあるため一定量の在庫は確保して横ばい、広葉樹は少な目の在庫で横ばい（九州）。

・広葉樹が入らない。仕入れに応じた消費（九州）。

28年12月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/12月	29/1月	29/2月
生産動向	スギ・ヒノキ	0.0	△ 18.8	△ 18.8
	マツ類	△ 16.7	△ 33.3	△ 33.3
	広葉樹	0.0	△ 11.1	△ 5.6
出荷動向	スギ・ヒノキ	0.0	△ 12.5	△ 12.5
	マツ類	△ 11.1	△ 27.8	△ 27.8
	広葉樹	0.0	△ 10.0	△ 5.0
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 35.7	△ 42.9	△ 50.0
	マツ類	△ 56.3	△ 62.5	△ 62.5
	広葉樹	△ 33.3	△ 38.9	△ 38.9

・スギ・ヒノキ、広葉樹チップの生産、出荷は12月の横ばいから1月、2月は減少に、マツ類は3ヵ月連続して減少。

・木材チップの在庫は全品目とも減少で、特にスギ・ヒノキ、マツ類の減少幅が大きい。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目		28/12月	29/1月	29/2月
スギ・ヒノキ類		0.0	0.0	0.0
マツ類		0.0	0.0	0.0
広葉樹		0.0	0.0	0.0

・木材チップの出荷価格は、3ヵ月連続して横ばい。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・広葉樹の入荷減により、針葉樹の出荷を増やしている（東北）。
- ・入荷減少で在庫を使用して、ほぼ横ばいの生産。出荷も横ばい（中部）。
- ・変動なし（中国）。
- ・当月は集材状況も良く、仕入れはやや増加、翌月以降は積雪の心配あり。生産も当月やや増加、翌月以降、出荷はやや減少。在庫は当月、翌月は横ばい、翌々月は減少（四国）
- ・11月は減産月だったため12月は針葉樹は増加、広葉樹は原木が少ないため横ばいの生産、出荷（九州）。
- ・原木の入荷に応じた生産（九州）。

(木材チップ価格)

- ・特に変化なし（東北）。
- ・価格は一定で値動きの見通しなし（中部）。
- ・変動なし（中国）。
- ・変動なし（四国）。
- ・変動なし（九州）。
- ・現状維持（九州）。